



湛水直播水稻に
使用できます

移植時に側条施用
できます

高密度は種にも
使用できます

水稻用殺虫殺菌剤

ツインターボ[®] 箱粒剤 08

箱育苗では、は種前から移植当日まで
いつでも使えます。



[水田主要病害虫に威力を発揮!]



いもち病



穂枯れ(ごま葉枯病菌)



白葉枯病



もみ枯細菌病



苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)



イネミズゾウムシ



イネドロオウムシ

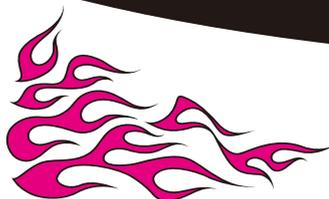


セジロウカ



ツマグロヨコバイ

水稻用殺虫殺菌剤



ツインターボ®



殺虫剤分類 4A
殺菌剤分類 P3

箱粒剤 08

有効成分：クロチアニジン…0.80% イソチアニル…2.0%
製剤毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)

特長

- 1 いもち病防除に、有効成分「イソチアニル」含有
- 2 高活性・長期持続性の「クロチアニジン」で効率的な害虫防除
- 3 は種前から移植まで、幅広い使用適期
- 4 動植物や環境などに対して高い安全性

イソチアニルは耐性菌発達リスクが低い病害抵抗性誘導剤です。既存の薬剤に耐性を持ったいもち病菌に対しても効果が高く、長い残効性を持っているので、安心して使用できます。

イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイに効果を示すクロチアニジンを配合。長期間にわたって害虫を防除します。

稲に対する安全性が高く、効果の持続期間も長いので、は種前から育苗期間中のいつでも使うことができます。

人畜、水産動植物などへの安全性が高く、有効成分配合量が少ないので、環境への影響が少ない薬剤です。

適用病害虫および使用方法

2021年10月27日現在の登録内容

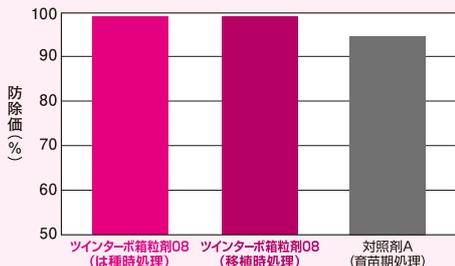
作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病、白葉枯病、内類褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)、もみ枯細菌病 ウンカ類、イネミズゾウムシ イネドロオウムシ、イネヒメハモグリバエ ツマグロヨコバイ	※1	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	4回以内 (但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (但し、移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		※2					
		※1	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する		
		※2					
	イネクロカメムシ	※1	移植当日		育苗箱の上から均一に散布する		
		※2					
苗木枯細菌病 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	※1	は種前	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する				
	※2						
	※1	は種時(覆土前)	育苗箱の上から均一に散布する				
	※2						
渾水直播水稻	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ	1kg/10a	は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する	4回以内 (但し、は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (但し、は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	
			移植時	側条施用	4回以内 (但し、直播ではは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (但し、直播ではは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	

※1:育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50g ※2:高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50~100g)

防除効果

● 葉いもち

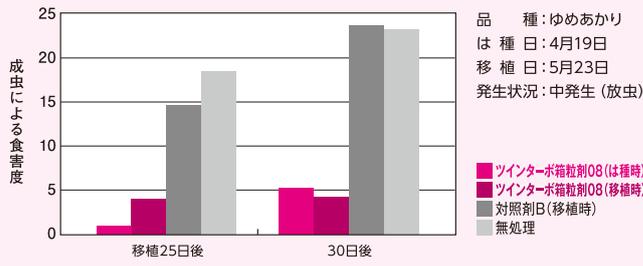
2006年 秋田県農林水産技術センター



品 種：ナツミノリ
は 種 日：4月11日
移 植 日：5月16日
発生状況：多発生
調 査 日：8月22日
(移植98日後)

● イネミズゾウムシ

2006年 青森農林総合研究センター



品 種：ゆめあかり
は 種 日：4月19日
移 植 日：5月23日
発生状況：中発生(放虫)

注意事項

＜使用上の注意＞

- 本剤を床土または覆土に混和する場合、処理後速やかに使用してください。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないでください。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 側条施用する場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきは丁寧にを行い、移植後田面が露出しないように注意してください。

- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布してください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

＜安全使用上の注意＞

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 保管…密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷凍・乾燥した場所に保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。 ●防除日誌を記載しましょう。

